

ZENBUTSU

全仏



No.
542

仏暦2551年 9月
[2008年]



三尊仏と経文を背負って田畑を回り豊作祈願をする—ネパール 撮影・田村 仁

目次

- 第24回世界仏教徒会議日本大会特集 ①
- 加盟団体をゆく 第18回 岡山県佛教会
- 韓日交流—心のかけ橋— ②
- 宗教教育推進委員会開催
- 比叡山宗教サミット21周年世界平和祈りの集い開催
- 機関紙『全仏』及びWFB大会プログラムの広告募集について
- 救援基金を各団体に寄託
- 靖国神社公式参拝中止の要請文提出

第二十四回世界仏教徒会議日本大会特集 ① 世界仏教徒連盟の活動と日本大会開催について

国際部

世界仏教徒連盟の成立

世界仏教徒連盟 (The World Fellowship of Buddhists, WFB) は、世界の仏教徒との交流友好親善をはかり、仏陀の崇高な教義を普及し、世界平和に貢献することを目的として一九五〇 (昭和二十五年) 年にスリランカで設立されました。

スリランカは、一九四八 (昭和二十三) 年、英連邦内で独立、当初セイロンを名乗りました。その年にセイロン大学のマララセーケラ教授は、世界を巡遊して各国仏教徒の団結を呼びかけ、その結果二十七地域の代表によって、五月二十五日、国内内の仏蘭寺 (ダラダ・マリグワ寺) で、世界仏教徒連盟 (WFB) を結成しました。そして翌年五月二十六日から三十日までコロンの仏教青年館で第一回世界仏教徒会議 (WFB大会) を開催しました。この大会は

大乗、上座部など世界の仏教徒が部派の違いを超えて始めて一堂に会した、歴史的にも大きな価値を持つものとなりました。

この第一回大会には日本から高階瓏仙師、中山理々師、佐瀬淳光師の三名が参加し、その偉業を目の当たりにされ、第二回 WFB 大会を日本に招致・開催する運びとなったのです。

現在、世界仏教徒連盟の本部はタイのバンコク市内スクンビット地区に置かれています。本部では



タイ・バンコクの
WFB本部

日本を含む各国代表が参集しての執行役員等の国際会議、またタイの独自の仏教行事、法話などが毎週活発に行われています。

第二回日本大会開催

第二回世界仏教徒会議日本大会は一九五二 (昭和二十七年) 年九月二十五日から三十日まで本願寺築地別院で開催されました。日本を含めて十九ヶ国から代表五百四十人が出席、二十五日午前十時半から本願寺築地別院で開会式。午後にはセイロン代表が奉持してきた仏舎利の奉迎式、二時から経過報告と各国代表のメッセージ朗読、以後二十六日より二十九日まで三部会及び青年部会に分かれて、平和・学術振興・各国センター間の連携強化等の課題について議論が深められました。

三十日には総会を開催して東京での行事を終了いたしました。

十月一日以後、各国代表は数班に分かれ日本各地を訪問し、三日に名古屋大会、五・六日に京都大会を開催。その後に各国代表は近畿圏の諸寺を訪問後、十三日に広島大会を開催し閉会しました。

第十二回日本大会

第十二回日本大会は、第二回日本大会より約二十五年後の、一九七八 (昭和五十三) 年十月一日より六日まで、再び日本で開催されました。

テーマは「二十一世紀における仏陀のメッセージ」。海外からは二十三ヶ国四十八センター、約四百名の代表・オブザーバーが参加しました。

また世界仏教青年連盟 (The World Fellowship of Buddhist Youth, WFBY) の第三回大会も合わせて開催されました。

メインの宿泊は東京グランドホテル。九月三十日に、総会が開催され、翌十月一日には本願寺築地別院で開会式を挙行、内外より約八百人が参加しました。同日夕刻にはホテルオークラでレセプション、翌二日には増上寺で分科会、パネルディスカッションを開催。同日夜には芝・白金の迎賓館で交流会が持たれ、福田赳夫総理大臣が出席されました。

翌三日には常設委員会、夕刻には国立劇場を借り切って歓迎大会

を開催、四日には、読売ランドでの仏舎利奉安法要、十月五日には全体会議の後、増上寺で平和祈願法要が営まれ、ダライ・ラマ殿下が出席されました。同日午後、参加者は京都に移動、夕刻からのさよならパーティーに出席、翌七日より参加者は比叡山・高野山等、地方大会に分散し参加しました。

この第十二回大会では、WFBのネパール・ルンビニー園復興事業への協力が決議され、以後本会がこの事業への具体的な協力へと踏み出す端緒となりました。



第十二回WFB日本大会
本願寺築地別院・本堂前

第二十四回日本大会開催へ

今秋、十一月十四日より十七日に東京・浅草で開催される第二十

四回日本大会は、前回の第十二回大会から約三十年ぶりの日本開催となります。また「地域の縁、アジアの縁」そして世界へ、の統一スローガンの下、昨年より進められて来た財団創立五十周年記念事業の終尾を飾る行事として、現在、鋭意準備が進められています。

日本大会テーマは「Buddhists' Contribution to Resolving Social Problem 仏教者の社会問題解決への貢献」に決まり、十一月十五日には内外から三十数名のパネリストを特別に招請し、「自殺・精神医療・社会開発・ジェンダー・終末期医療・平和構築・青少年」の七部会に分かれてシンポジウムを開催します。その後にWFBの各種委員会を開催し成果は今後のWFBの活動に生かされます。

また翌十六日午前には、浅草寺観音堂再建五十周年の様々な記念行事の開催される中、各国代表が参列し「世界平和法要」を厳修致します。

三十年ぶりの日本大会開催に際してのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

WFBの組織と活動について

WFB（世界仏教徒連盟）は設立以来二〜三年に一度、最高議決機関である世界仏教徒会議（以下、WFB大会）を各国センターとの連携の下、開催してきました。

WFBには会長一名、副会長十五名、執行役員八名、九つの常設委員会に委員長各一名等の役職者が置かれています。各役員はWFB大会直前の総会並びに大会の全体会議での選挙で選出されます。

日本では全日本仏教会が唯一のセンターとしてWFBに加盟し、会長が後援者（patron）に就任、他に副会長、執行役員を務めています。

運営に関しての方針協議、財務状況報告、世界仏教徒会議開催の日時・場所・議案内容等の検討・決定が行われます。

WFB大会では各国センター代表出席の下、執行役員会議の報告を基に議論・採決が行われます。

WFBは、六ヶ年計画等の長期的展望の下に事業を展開し、最近では基金を設置・活用してミャンマーのサイクロン被害などに対し積極的に救援活動を展開しています。

またWFBの関連団体としてWFBY（世界仏教青年連盟）があり、本部はWFB本部と同所のタイ・バンコクに置かれています。

日本では本会加盟の全日本仏教青年会が唯一の地域センターとなっています。

またWBU（世界仏教大学）もWFBの関連団体であります。本部はバンコク郊外のブツダモントンにおかれています。WBUは国連大学の構想に近く、今後世界の仏教研究者・研究機関のネットワーク化を推進する方向にあります。

今回の第二十四回WFB日本大会は、第十五回WFBY大会、第七回WBU大会も同時開催され、各国より代表が日本で一堂に会し議論を深めます。



WFB執行役員会議の様相

半年に一度の執行役員会議においては、新規加入希望団体の審査、活動計画の立案と実施状況報告、組織

加盟団体をゆく

《第十八回》 岡山県佛教会

今回は、岡山県佛教会を訪ね、会長 橋本明禪師（多聞寺住職・全日本仏教会副会長）にお話を伺いました。

多聞寺のある小田郡矢掛町は本陣・脇本陣が現存し、宿場町としての情緒ある景観をとどめており、岡山県町並み保存指定地区になっっています。気高い伝統と文化への思いが「歴史かおる文化の町」として息づいています。



橋本明禪岡山県佛教会会長

―仏教会の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

本仏教会は、いくつもの取り組みを通じ、地域の方々や宗教者に貢献しています。

一つ目は、「世界連邦宗教者の会」を昭和五十七年に組織し、爾来、毎年大会を開催しています。本年は、第二十七回大会を十月に開催いたします。

「世界連邦宗教者の会」は十一の所属団体が構成されており、毎年持ち回りで大会を開催しています。

二つ目は、県仏教会と県警察署が連携し、交通安全「ひと言法話」ネットワークを構築し、住職に法話の中で交通安全のアドバイスをしてもらっています。「ひと言法話」では、特に高齢者の交通事故防止に貢献しています。

三つ目は、宗教法人向けの研修

会を年四回開催しています。

主な内容として、宗教法人を取り巻く「税金問題」「環境問題」「浄財管理」などなど、毎回六十から七十名ほどが参加しています。

四つ目は、岡山県佛教会テレビホン相談室の開設。昭和六十三年より、毎週月曜日から金曜日までの午後三時から五時までの間、あらゆる電話相談を受けています。仏事のことから日常のことも含めて、一日十件から十五件ほどの相談があります。

また、年に一度、著名人を講師に迎え、無料の講演会を開いています。

五つ目は、RSK放送ラジオで毎週土曜日朝「仏教アワー」を放送しています。平成四年から、朝五時三十分より放送。アンケートによると、朝五時台に起きている人々の五十パーセントは聞いているとのこと。また、収録されたものを冊子にして配布しています。

―仏教界の今後の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

戦後六十三年、私たちは、目に見える物質と、金銭の価値だけを追求してきたかに思われます。それは、新生日本に必要なことではありましたが、見失ったものも多くあります。

生きる喜びが見出せないとか、他の人が自分と同じ人間であると感じない、いのちの尊さがわからない、といった人々が増え続け、人間が壊れつつあるとの危機感をひしひしと感じています。

一方、少子高齢化、人口移動、核家族化等により、伝統教団はその社会的存在基盤が揺らいできたようにも思われます。

これには、戦後六十余年、政治や教育はもちろん、いろいろな要因が絡み合っして生じてきた事と思われませんが、その中でも最も大きな要因は、家族の崩壊ではないでしょうか。

核家族、少子高齢化によって、暖かい家庭で育つはずの「思いやりの心」「感謝の心」「いのちの尊さ」等がわからない若者たちが増え続けている。

また一方、宗教法人を取り巻く

環境が著しく変化しつつありま
す。葬儀や法要に対する考え方、
国内人口の減少、地方の過疎化、
家族形態の変化等、いろいろ問題
が生じています。

このように宗教法人を取り巻く
変化に対して、危機感を持たない
若僧たちが多いように思います。

今こそ、仏教界が、時代の変化
に目覚め、お互いに手を携え協力
し合い、後継者の育成に力を尽く
し、人心の荒廃や、世情の乱れに
早急に対応していくことが肝要で
はないかと思えます。

―昨今の様々な社会問題につい
て、感じていらつしやる思いをお
聞かせ下さい。

近頃、想像を絶する犯罪の続
発、陰湿ないじめや自殺、凶悪な
少年犯罪。

中でも、駅のプラットホームで
乗客を突き落として殺したり、人
を殺して切り刻んで下水に流した
り、歩行者天国に暴走で突っ込み
多くの人を殺傷し、その後包丁を
持って追いかけてまわし、幾人も
人を殺傷する。しかもそれが全て

計画的であり、誰でもいいから殺
したかったんだという無差別殺傷
を起こし、反省の心が全くない若
者。本当に呆れた事件です。

現在、教育基本法改正の動きが
見え、国も「宗教教育」にかかわ
れるようにする、環境づくりを進
めようとしているとのことですが、
早急に「宗教情操教育」を教
育の場にもうけ「共に生きる」と
いうことや、「いのちの大切さ」「弱
者に対する思いやりの心」などを
身につけさせることが必要だと思
います。

われわれ宗教者もまた、自らの
研鑽を重ね、宗教心が独断と偏見
に陥っていないか点検しながら、
あらゆる場で「心の教育」に情熱
を傾けなければならぬと思いま
す。

―(財)全日本仏教会へのご要望や
ご意見がありましたらお聞かせ下
さい。

我々の上部団体として、県仏教
会等では処理できない事柄に迅速
に対応していただけると有り難い
です。

先般も、こちらからの問い合わせ
に早急にお返事をいただき、大
変助かりました。

いろんな宗派の違いがありますが
ので、統一した物をというのでも難
しいと思いますが、皆が力を合わ
せて仏教会を盛り上げていって
いただきたいと思います。

(談)

橋本明禪会長は、三十年に渡り
写真家として活動され、数々の
賞を受賞し個展も開催されてお
ります。写真集『霊峰 高野山
の四季』も発刊されておりま
す。

定価四千円。お問い合わせは

多聞寺企画室 電話番号

0866-82-0629 迄



珠数、仏具と高野山のおみやげ
創業元禄年間

珠数屋四郎兵衛

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山771

TEL 0736-56-2121 FAX 0736-56-4477

http://www.juzushi.co.jp E-mail juzuya@sannet.ne.jp

韓日交流―心のかけ橋― ②

東京大学客員教授 洪鍾似〔ホン・ジョンピル〕

二〇〇二年二月に黒田福美さんと会った頃、私は沖縄の「平和の礎（いしじ）」の仕事をしていました。これは、太平洋戦争の頃沖縄で亡くなった韓国人を礎（石碑）に刻むために彼らの名前を調査すること、一九九五年四月に沖縄県知事の依頼で着手したものでした。

その頃、黒田さんは自分の夢に幾度か現れた韓国人特攻兵の青年が慶尚南道泗川（サチョン）出身の光山文博（韓国名 卓庚鉉）であることを確信して、彼の魂が安眠できるように故郷に慰霊碑を建てるための活動を始めていたところでした。私は黒田さんの意志と活動に賛同して、卓青年の故郷である泗川市を黒田さんと共に訪ねました。

この時私たちは泗川市だけでも

二二〇〇名余りの戦争犠牲者がいることを知り、驚いたのです。そこで当初の構想を少し変更して、特攻兵の卓青年ばかりでなく泗川市出身の全ての戦争犠牲者の魂が故郷に戻ることでできる帰郷祈念碑を建てようと思いました。

ここに「帰郷祈念碑建立実行委員会」を結成しました。またこれに賛同した泗川市による土地提供など積極的に協力の下、二〇〇八年五月二日には、龍華寺住職の読経の中泗川市西浦面大浦里体育公園内に帰郷祈念碑は竣工しました。

ところが五月六日になって突然民族主義と愛国主義を標榜する左派の泗川市進歩連合が、「親日碑建立反対」を叫びだし、九日には右派である光復会（独立運動有功者団体）までが反対を叫び始め

した。これにより泗川市は実行委員会への協力を撤回し、五月十日の除幕式は中止されました。我々実行委員も日本からの参加者も両国報道陣すら式場に近づくことはできませんでした。

そしてこの祈念碑は我々実行委員会には何の通知もなく泗川市によって撤去されました。これを知った龍華寺住職はこの措置に心を痛めて寺で保管してくれていました。

このような泗川市に対して実行委員会は原状回復と謝罪を求める内容の文書を五月二十二日から七月一日までの間に三通送りしましたが、市からは六月二日付けで「お気持ちには分るが残念だ」という意味の返信が一度あったのみ、何ら具体的な回答はありません。

このような事態に対して五月十日位から日本のマスコミが報道を始めましたが韓国内での報道はほとんどない状態でした。五月下旬になりアメリカのAP通信がこれを取り上げるとようやくある日刊紙が報道した程度です。

韓国内で祈念碑建立に賛同していた人たちも、左派進歩連合に圧倒され何も言えない状態です。これは民族・愛国主義を盾にとった進歩連合の主張が、多くの韓国人に受け入れられた結果と思われる。

結局のところ現在の韓国には、進歩連合の行き過ぎた民族・愛国主義に打ち克つ健全で合理的な言論が確立されていないということになります。帰郷祈念碑が未だに建立されていないということが、その象徴であり、結果なのです。

しかし実行委員会は、「逆境は英雄をつくる」というポルトガルの格言を信じて、まず反対する人の誤解を解こうと努めているところです。しかし反対者たちは未だに対話に応じていないというのが実情です。

一日も早く帰郷祈念碑を再建したいという実行委員会の願いが叶い、泗川市に提出されたままになっていない平和公園案も実現して、太平洋戦争で犠牲になった全ての韓国人の名前がここに刻まれるこ

とにより、その魂が懐かしい故郷に帰ることを祈るのみです。

「そうなることで平和公園は、韓国人たちにとっては先祖たちの尊い犠牲を追悼し、日本人たちに「不幸な過去」への反省を促す。更には現代人たちに「平和の大切さ」を伝えて、未来志向の新韓日時代を構築するための出会いの場になると固く信じています。」

洪鍾僖氏略歴

一九三六年韓国生まれ

現在東京大学客員教授、韓国沖繩研究所長、韓国沖繩学会長

ソウル延世大学史学科卒業、京都大学大学院で博士号取得、

京都大学客員教授

帰国後明知大学史学科教授、大学院主任教授、人文科学研究所長、博物館長を歴任

一九九五年四月 沖繩県の依頼を受けて第二次世界大戦中に沖繩に強制連行された韓国出身者の名前を「平和の礎」に刻むため、創氏改名前の氏名判明作業に当たる

※次回は女優の黒田福美さんにご寄稿頂きます。

第二回 宗教教育推進委員会会議開催

第二回宗教教育推進委員会会議が七月二十二日、本学会議室にて開催され、十二名が出席した。

まず、新委員に委嘱の伝達が行われた後、委員の変更が報告された。

就任

藤原聖子（事務総長推薦）

赤平法導（浄土宗）

粕谷利通（真言宗豊山派）

退任

岡本宣丈（浄土宗）

菅野秀浩（真言宗豊山派）

続いて、前回の協議内容の確認及び各委員から送付された資料の確認がされ、宗教教育推進のため、委員会の方向性と委員会運営について協議が行われた。

宗教教育について、公立・私立の小・中学校でどのような教科書や指導要領・要綱等が使用されて

いるか。さらに各宗門系学校ではどうか。本委員会として現状の把握をするために資料収集・情報等の調査を行う。

調査に関しては、委員全体での調査は難しいため小委員会を作り、現状把握を進めていくことが了承された。

協議の結果、全体会議において認識を深めていくという意味で外国での宗教教育について藤原委員に報告をいただくという事が決定された。

文部科学省の取り組みの現状把握について協議され、宗教教育担当者を引き、質疑応答の機会を設けて話を伺うこととなった。次回会議は、文部科学省の返答に応じて開催時期を決定する。

平成21年1月※、「株券電子化」で株券が無効に！
名義書換えはお済みですか？

お手元（ご自宅や貸金庫）に株券をお持ちで、ご本人さま名義に書換えを行っていない方は、株券の電子化にあたり、株主としての権利を失う可能性があります。まずは大和証券にご相談ください。

※正式には政令により実施日が決定されますが、経済界・金融界としては「平成21年1月」を実施目標として準備を進めています。

「株券電子化」に関するお問い合わせは、お近くの大和証券 本・支店もしくは、

株券電子化専用ダイヤル **0120-851850**
平日 9:00~18:00 / 土・日・祝日 9:00~17:00 ※お客様の残高照会や投資相談は受付けておりません。

大和証券
Daiwa Securities

比叡山宗教サミット二十一周年

「世界平和祈りの集い開催」

八月四日、「世界平和祈りの集い」が滋賀県大津市の比叡山延暦寺で開催され、約千人が参集。本会より豊原大成理事長が参列した。

比叡山宗教サミットは、宗教・宗派を超えて宗教者が集い、平和の祈りを捧げる行事であり、天台青少年比叡山の集いも同時に開催されている。壇上には地球を模した直径約一・五メートルの球体が置かれ、式中、青少年研修生たちが折り鶴を投じた。

開会に際し、天台宗の濱中光礼宗務総長が挨拶。法楽の後、半田孝淳天台座主により平和祈願文が読み上げられた。

その後、仏教、キリスト教、イスラム教、神道、新宗教など各団体からの来賓が壇上へ登り、豊原理事長も登壇。「平和の鐘」の音が響く中、参加者全員起立にて黙祷が捧げられた。

海外からのメッセージとして



壇上で黙祷する半田天台座主（右）と豊原理事長（左から二番目）

WF Bパン・ワナメツテイ会長の祝辞をパロップ・タイアリー事務総長が代読。青少年会からユニセフへの寄付金委託、平和の合い言葉唱和の後に閉会。びわ湖ホテルでのレセプションへ移行した。

レセプションでは、豊原理事長が祝辞を述べ、自身の戦争体験を通じて平和の尊さと、各宗教者の平和への取り組みの大切さを訴えた。和やかな雰囲気の中閉会となった。

機関誌『全仏』及びWF B大会プログラム広告募集のお知らせ

本会機関誌『全仏』は、月間一万部発行され、各寺院をはじめ多数の方に購読されております。

また、第二十四回世界仏教徒会議日本大会の開催にあわせ、全日本仏教会では大会日程・要旨を詳細に紹介する「大会プログラム」を作成致します。

広告掲載により、企業イメージの向上、知名度上昇の好機になると確信致します。

是非広告掲載のご検討をよろし

くお願いいたします。

広告掲載ご希望の方は、左記全日本仏教会事務局までお問い合わせ下さい。

全日本仏教会 広報文化部

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

電子メール kouho@jfbf.jp

※ 掲載内容によりましては、若干の変更、もしくは掲載をご遠慮頂く場合がございます。ご了承下さい。

保険をもっと便利にもっと身近に、もしもの時にお客さまを守る
個人用自動車総合保険「ONE-Step」や
インターネットによる契約と行き先別にリスクを細分した
新・海外旅行保険「off! (オフ)」など。
あったらいいな、をカタチにする柔軟な発想ときめ細やかなサービス。
21世紀、日本の新しいライフスタイルに合った
高品質の安心を力強く、ご提供します。

日本の保険は、ジャパンが変える。



損保ジャパン

株式会社 損害保険ジャパン

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL. 03(3349)3111
ホームページアドレス <http://www.sompo-japan.co.jp>

SJ05-12524 (2006.3.1)

総務財政審議会

―賛助会員制度の運用について―

経過報告

現在、理事長諮問の一つである「賛助会員制度の運用について」本審議会で協議を重ねている。

賛助会員は「個人」「団体」「特別会員」の三つに分れている。「個人」は機関誌『全仏』の個人購読者や国会議員等を対象として考慮し、一般社会に本会を認知してもらうことに主眼を置いている。「団体」は営利法人・非営利法人を対象とし、本会の運営や広報を支援してもらうことに主眼を置いている。また、「特別会員」は県仏教会未結成の地域仏教会や各宗派の本山等に入会を促し、本会の事業目的の一つである「組織強化」に主眼を置いている。

この運用については、審議会で了承され、理事長諮問の一つとして、正副委員長から答申した後、賛助会員制度をスタートする予定である。

社会人権審議会

七月三十日、本会会議室において第一回社会人権審議会（人権部会）が開催された。

同和・人権問題への対応について協議され、仏教徒共通の願いであるあらゆる差別の撤廃を進めるため、継続して部落差別撤廃に対する取り組みを進めていく旨が検討された。

また、八月一日付けで首相及び閣僚の靖国神社公式参拝要請書を首相官邸へ提出することが報告された。

次回部会は来年一月二十六日に開催予定。



同和・人権連絡協議会

七月三十日、本会会議室において第一回同和・人権連絡協議会が開催された。

まず、社会人権部白井次長が韓日友好「帰郷祈念碑除幕式」への参加報告を、プロジェクトを使用して行った。各委員より今後の関わり等について意見が出された。

続いて、差別法戒名及び墓石改正への取り組み、朝鮮半島出身旧民間強制徴用者等の遺骨返還についての各団体の現況と取り組みについて意見交換がなされた。各団体の取り組みに関する研究・事業・冊子についても情報交換がなされた。



国際交流審議会

七月二十四日、本会会議室において第二回国際交流審議会が開催された。

諮問事項である「今後の国際交流事業の具体的展開」について、広報・災害復興支援活動・仏教文化交流・国際的仏教人材育成の諸点に関して活発に審議が行われた。

特に過去二回の世界仏教徒会議日本大会を契機とした人材育成について、奈良康明・小笠原隆元委員より歴史的経緯を踏まえて詳細に説明された。

続いて今秋の第二十四回日本大会の準備状況が事務局より説明され、質疑応答および意見交換が行われた。

また大会の記念事業として仏教主義学校連盟（在京の仏教系中学・高校の連合体）主催 第二十四回弁論大会を本会が後援することが事務局より報告され了承された。

次回委員会は、日本大会終了後に開催予定。

ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震、岩手・宮城内陸地震の 被災者支援のため救援基金を追加支出

ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震、岩手・宮城内陸地震の被災者救援のために、人道的見地から(財)全日本仏教会は、各団体に救援基金の寄託を行いました。

ミャンマーサイクロン被災者支援

- ①日本UNHCR協会 200万円 (7月10日)
- ②WFB (世界仏教徒連盟) 300万円

中国・四川大地震被災者支援

- ③日本ユニセフ協会 150万円 (7月10日)
- ④BNN (仏教NGOネットワーク) 150万円 (7月9日)

岩手・宮城内陸地震被災者支援

- ⑤日本赤十字社 100万円 (7月10日)



深澤信善事務総長(左)
田中 豊 日本赤十字社救護・福祉部長(右)

①③⑤は深澤信善事務総長が赴き手渡し、②④は振込にて寄託致しました。今後も現地の救援状況により更なる支援を行う予定です。引き続き、より一層のご協力を重ねてお願い申し上げます。

「救援基金」寄付者一覧

(六月十日～八月十一日)

真言宗御室派・丹原仏教会

臨済宗円覚寺派・黄檗宗

東京ブデイストクラブ

浄土宗平和協会

愛媛県西条仏教会

東京都仏教連合会・東予仏教会

京都仏教会・福生院 松平實城

浄土宗西山禅林寺派

徳源寺関東蓬萊会

西山浄土宗・宇摩仏教団

栃木県仏教会

天台眞盛宗・和宗

大洲市仏教会・長野県仏教会

檀原市仏教会・顕本法華宗

(順不同・敬称略)

合計 一〇、七七四、七八五円

ご支援誠にありがとうございます。
ました。

ミャンマーサイクロン及び中国・四川大地震被災者への指定寄付は八月末日にて締め切らせて頂きました。

指定のない、一般救援基金に対する募集は継続させて頂きました。

す。仏教界挙げての人的活動の為、ひきつづきご協賛のほどよろしくお願ひ申し上げます。

※救援基金の送付先

【郵便振替】

口座番号

00110-9-704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号 0973031

口座名義 財団法人全日本仏教会

御用達 総本山



法衣・仏壇・仏具・仏像
古美術・貸装束・授与

上田法衣佛具店

〒604-0913 京都市中京区河原町二条西入上ル
電話(075) 221-3348(代表)
フリーダイヤル 0120-07-3348
FAX(075) 221-1858
振替口座 01040-8-254
E-mail: uedahoui@yahoo.co.jp
http://www.ueda-houi-butstugu.com/

事務総局録事

七月（一〜三十一日）

- 二日▼世界宗教者平和会議出席（於 札幌 至三日迄）
- ▼東京お盆まつり出席（於 銀座プロッサム）
- ▼「仏教とジェンダーシンポジウム」出席（於 本願寺築地別院）
- 三日▼群馬県仏教連合会取材
- 四日▼局内会議
- ▼「平和のために提言する世界宗教者会議」の提言書を提出
- 五日▼ダライ・ラマ法王誕生祝賀会出席（於 ホテルオークラ）
- 七日▼大谷派真宗会館職員来局
- ▼電通清宮氏来局
- 八日▼社会人権審議会開催
- 九日▼仏教英語プログラム
- 十日▼無料法律相談室
- ▼日本赤十字社・ユニセフ協会・日本UNHCR協会に救援基金寄託
- ▼JTB打合せ
- 十六日▼日本宗教連盟 幹事会出席（於 本社本庁）
- ▼第三十三回部落解放・人権 西日本夏期講座参加

十八日▼関西支局運営委員会（於 京都）

- ▼真言宗犬鳴派宗務所訪問
- ▼ICS打合せ
- ▼芝学園訪問
- ▼宗教育推進委員会
- ▼ICS打合せ
- ▼ICS打合せ
- ▼「平和のために提言する世界宗教者会議」の提言書を提出
- ▼浅草ビューホテル
- ▼社会人権審議会（人権部会）
- ▼同和・人権問題連絡協議会
- ▼総務財政審議会
- ▼文化庁宗務課訪問
- ▼「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を提出
- ▼文化庁訪問
- ▼（社）部落解放・人権研究所 創立四十周年記念式典出席（於 大阪）
- ▼比叡山宗教サミット二十一

八月（一〜十日）

- 一日▼「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を提出
- ▼文化庁訪問
- ▼（社）部落解放・人権研究所 創立四十周年記念式典出席（於 大阪）
- ▼比叡山宗教サミット二十一
- ▼WF日本大会開催浅草地区説明会（於 浅草寺）
- ▼第三十回全国仏教保育宮城大会出席（於 仙台国際センター）
- ▼日本宗教連盟幹事会出席（於 本社本庁）
- ▼パロップ・タイアリーWFB事務総長来局
- ▼西村輝成副会長来局
- ▼局内会議
- ▼東京都仏教連合会事務局長訪問（於 善立寺）
- ▼浅草仏教会常任理事会出席（於 妙経寺）
- 周年出席（於 比叡山延暦寺）

お詫び・訂正

八月号（五四一号）において誤りがございました。七頁下段、
 誤 護符内八十八ヶ所霊場
 正 御府内八十八ヶ所霊場
 九頁
 誤 帰郷記念碑
 正 帰郷祈念碑
 十頁の暑中協賛広告中、日蓮宗様の記載、
 誤 管 長 藤井 日光
 正 管 長 酒井 日慈
 謹んで訂正させて頂きます。
 不手際により大変ご迷惑をおかけしましたこと、関係各位に心よりお詫び申しあげます。

哀悼

服部 融宣師（本会前常務理事）
 高野山東京別院主監
 七月三十一日遷化 六十九歳
 塩澤 大定師
 前臨済宗南禅寺派管長
 八月四日遷化 八十八歳

祈りの世界 ⑤ネパール

ヒマラヤの名峰アンナプurna山群の北側はチベット系民族の居住地である。人々がかつてチベットからネパールやインドへの交易の過程でヒマラヤ山中に定住するようになり、限りある耕地で農業と牧畜を営む敬虔な仏教徒である。麦蒔きの終えたばかりのある村でチヨスコルという祭りに出合った。僧侶の打ち鳴らす太鼓やシンバルに先導され、その後三尊仏と経文を背負った村人たちがつづき村中の田畑をくまなく練り歩く。豊作と息災を祈願する祭りである。

写真・文 田村 仁



カトマンズ国立博物館の燃燈仏

「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を提出

八月一日、深澤信善事務総長、田澤元泰社会人権審議会委員長が首相官邸に赴き、岩城光英官房副長官と面談し、左の要請書を手交した。

八月十五日、靖国神社へ三人の閣僚が参拝した事から同月十九日、再度岩城官房副長官を訪ね、抗議を行った。(詳細は全仏ホームページに掲載)

首相及び閣僚の靖国神社公式参拝

中止の要請

本会は、首相及び閣僚の「靖国神社公式参拝」に対して、反対の意志表明と公式参拝中止を要請いたします。

靖国神社は、特定の基準をもって合祀の対象とした戦没者を神霊として祀る神社であり、純然たる宗教施設であることが明白であります。

拠つて、一宗教団体である靖国神社に首相及び閣僚が公式参拝することは、どのような形式をとりましても、憲法に定める「信教の自由・政教分離」の原則に違反することは疑いの余地がありません。

最高裁判所は、靖国神社等への公金支出が、金額の多寡を問わず憲法違反に当たるといふ、明確な判断を示しております。

私たちは、戦後六十三年のあいだ日本国民が守り育ててきたこれらの憲法の規定こそが、今日の日本の平和と繁栄の礎となっていることを、改めて確認し伝えていきたいと思ひます。

戦没者の追悼は、国家が特定の宗教に関わつて行うべきものではなく、各ご遺族がそれぞれに真実と仰ぐ宗教によつてなされるべきものであることは、当然のことであります。

以上の理由から本会は、首相及び閣僚が、靖国神社への公式参拝をなさないよう、強く要請いたしますのであります。

二〇〇八年八月一日

財団法人 全日本仏教会

理事長 豊原大成

内閣総理大臣

福田康夫 殿

財団創立五十周年記念事業特別協賛金寄付者一覧

(七月九日～八月十三日)

清水谷孝尚副会長 (聖観音宗管長)

東條仁哲副会長 (真言宗犬鳴派管長)

西村輝成副会長 (東京ブレイストクラブ会長)

深澤信善事務総長

近龍寺 松濤弘道・妙定院 小林正道

高福院 川島宏之・日輪寺 粕谷利通・(株)雅裳苑・延命寺 田中末一

法相宗大本山 興福寺・法相宗大本山 薬師寺・宝生院 小山榮雅

時宗総本山 遊行寺・大乘淑徳学園・大谷大学

高野山学園・高野山大学・京都女子大学

大谷学園・相愛学園・東洋大学文学部インド哲学科

駒込学園・筑紫女学園・駒澤大学・龍谷大学

萬福寺 安本利正・遍照院・善林寺・霊岩寺

(順不同・敬称略)

【合計 七、〇〇〇、〇〇〇円】

ご支援ありがとうございました。更なる皆様のご支援・ご協力をお待ち申し上げます。

【郵便振替】

口座番号 0013016137600

口座名義 財団法人全日本仏教会

【銀行振込】

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号 普通 7082913

口座名義 財団法人全日本仏教会